



Title	開邦高等学校 科学部 「弁ヶ嶽におけるモクタチバナ林とモクマオウ林のリター分解速度と土壌動物の比較」
Author(s)	大平, 洋美; 町田, 美由季
Citation	琉球大学21世紀COEプログラム主催 国際シンポジウム「沖縄の生物の未来 ~生物多様性の島から環境を考える~」
Issue Date	2008-11-03
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/8608
Rights	

開邦高等学校 科学部

「弁ヶ嶽におけるモクタチバナ林とモクマオウ林の
リター分解速度と土壌動物の比較」

発表者: 太平洋美・町田美由季

本校の西側に接する弁ヶ嶽は、沖縄県南部の那覇市首里に在し本島中南部では一番高い山で、市街地にありながらも比較的自然而保たれた状態にある。その弁ヶ嶽にはモクマオウが植林された箇所があり、他の箇所と比較しても階層構造が単純で植物の種類数も少ないことが感じられた。そこで、弁ヶ嶽の『モクタチバナ林(比較的自然而残っている林)』と『モクマオウ林(人工的に植林された林)』という異なる植生における土壌動物とリター分解速度を調査し、自然林と人工林の多様性について考察していきたい。方法としては、弁ヶ嶽の土壌をサンプリングし、落葉層と土壌層0~5cm、5~10cmにわけ、それぞれの層で出現した土壌生物のおおまかな分類を行った。また、リターバッグを設置し、リター分解速度を測定した。さらに環境診断表(青木 1995)を用い、土壌動物の視点から弁ヶ嶽の自然度診断を行った。

